

「災害に備える知恵」 満載の情報紙

回覧

自主防災新聞

No. 104
2019年11月

地震防災強化月間スローガン

「防災力 人の輪 知恵の輪 地域の輪」

重点項目

自助の推進

- 【住居】 家具類の固定
- 【備蓄】 家庭内の生活物資 1週間分の備蓄
- 【確認】 ハザードマップの確認
- ※総合防災アプリ「静岡県防災」で確認できます
- 【点検】 住居周りのブロック塀の点検

日頃の備えを見直し、
地域の防災力を高めましょう！



共助の実践

- 【体制】 自主防災組織内の人材台帳の作成
- 【支援】 避難行動要支援者の所在の把握と支援方法の確認
- 【運営】 避難所運営訓練の実施
- 【教育】 中・高校生の地域防災訓練への参加

詳細は中面へ

11月の「地震防災強化月間」では、12月第1日曜日の「地域防災の日」に実施する地域防災訓練に向け、実施方針に掲げた重点項目を実施し、自助・共助の意識を高めましょう！

詳細は

12月1日(日)の地域防災訓練に参加しましょう!!

静岡県の「地域防災訓練」と「地域防災の日」

本県では、1983年(昭和58年)から、自主防災組織を中心に地域の实情に合わせた防災訓練が実施されて来ました。

1986年(昭和61年)には、静岡県地域防災計画で「地域防災の日」(12月の第1日曜日※)を定め、この日を中心に「地域防災訓練」として実施することになりました。

※「東南海地震」(県内死者295名)が、1944年(昭和19年)12月7日に発生したことによる。



昨年度の訓練の様子(富士市立第二小学校)

静岡県総合防災アプリ

静岡県防災

地域の危険性や避難場所を確認!

マップ・
避難場所等QRコードを
読み込んで
アクセス

日頃から自宅・学校・勤務先周辺の
災害リスクや避難場所・避難所を確
認しておきましょう!

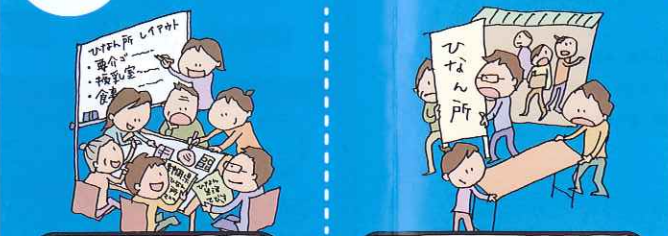


避難所は避難所利用者が主体的に運営します！ ～避難生活の手引き～

普段、皆さんが「衣・食・住」を自ら行っているように、避難所で共同して生活する場合でも、「自分たちのことは自分たちで行う」ことが基本となります。役割やルールを決めて避難所利用者が主役となり、避難所を運営していく必要があります。

組織等	主な役割
避難所運営組織 (避難所利用者による)	避難所の運営主体 ・地域のマニュアル等に基づく避難所立ち上げ後、利用者全員をメンバーとする「避難所運営組織」を立ち上げる。
自主防災組織 (地元自治会)	・避難所の立ち上げを主導する (適宜、「避難所運営組織」に体制を移行する) ・避難所や地域住民への情報伝達
避難所施設管理者 (学校等)	・施設管理 ・避難所の運営支援 (おもに施設、備品)
市町職員	・市町本部との連絡調整

自分のことは自分で行う！
できることは協力する！



日頃の意識

発災時の行動



誰かが何とかしてくれるよね？
何をすればいいかわからないし...

みんなが主役の避難所

- ・避難所利用者一人ひとりが、できることを協力しながら行う避難所では活力が生まれ、健康二次被害の防止にもつながります。
- ・応急仮設住宅等への転居など、次の復興段階において、避難所で築かれたコミュニティを活かすことができます。

みんながバラバラで自分勝手な避難所

- ・「誰かが何とかしてくれる」と考える人ばかりでは、様々な場面で避難生活が滞ります。
- ・一人ひとりが、「自分のできること」を見つけて運営に参加することが、快適な避難所生活を送る上で大切です。

最初はみんな「お殿様かお姫様」の避難所

避難所に来た皆さんは、最初は、お殿様かお姫様みたいに、じっと座っているだけなんです。私たち役員が対応に追われているときも、同じ被災者なのにね...。そこで、「一緒におにぎりを握ってください」とお願いしたら、若い人もお年寄りも我に返ったように、手伝いをしてくれました。あれから、避難所にいる人たちの気持ちがひとつになったような気がします。



「内閣府一日前プロジェクト」を参照作成

あなたならどうする？ - 発災から住まいの再建まで -

避難所での生活だけが「避難生活」ではありません。各家庭の状況により、避難のスタイルは異なります。在宅での生活継続をめざしましょう。



※応急危険度判定は、り災証明書を発行するための「住家の被害認定調査」とは別の調査です。
(注) 応急危険度判定... **緑色**：「調査済」使用可能 **黄色**：「要注意」立入りには十分注意 **赤色**：「危険」立入らないこと

※仮設住宅等での生活を経ずに、自力で住宅の修理・建設・購入をする場合もあります。



わが町の防災活動!!

三島市芙蓉台自主防災会会長 勝木 昌則
(約900世帯・2,300人)

私たちの地区は、毎年「避難所開設訓練」を実施しています。地域住民を中心とした組織により、避難所開設アクションシートを掲示し、事前に決めておいたレイアウトを基にロールシートを活用した通路の確保、情報の掲示等を行っています。また、災害時のトイレの重要性を伝えるため、地区の防災委員による携帯トイレの使用法の説明も実施しています。避難所は避難所利用者で運営していく必要があります。今後も地域主体の訓練を続けていきます。



ロールシートを活用した通路の確保



携帯トイレの説明

避難所開設アクションシート ～優先的に行動すること～

- ① 避難所運営グッズのコンテナの搬出
 - ② 避難所開設アクションシート・レイアウトの掲示
 - ③ 参集した市民・学校・市職員による役割分担決定 (発災1時間後)
 - ④ 体育館の安全確認 (市職員)
 - ⑤ シートによる体育館の通路設置・受付準備・投光器設置 (夜間)
 - ⑥ 要配慮者 (高齢者・障がい者・妊婦・乳幼児) の把握
 - ⑦ 避難者をグラウンドから体育館へ誘導 (要配慮者が先)
 - ⑧ 避難者受付→入室
 - ⑨ 救護活動
- 第1優先
- ① 簡易トイレと仮設トイレの設置
 - ② 特に配慮が必要な要配慮者の把握
 - ③ ラジオによる情報収集
 - ④ 情報掲示板の設置
 - ⑤ 水・食料・毛布の支給 (適時)
- 第2優先
- ① 避難所運営本部の設置 (各班の役割・担当者の特定)
 - ② 避難者名簿の作成 (避難者数の把握)
 - ③ 避難所運営本部と自主防災本部の無線通信
 - ④ 地域の被害情報の収集
- 第3優先

避難所開設アクションシート (三島市作成)



被災地訪問!!～ふじのくに防災人材育成事業～

8月6～9日にかけて、高校生21人が岩手県陸前高田市、宮城県石巻市等を訪問し、語り部による講話、民泊を通じた現地住民との交流をしました。生徒たちは今回の訪問を通して、自分たちの学校・地域が抱える防災上の課題を踏まえ、「防災の提言」として取りまとめ、発信していきます!



5 民泊でお世話になった方との集合写真 (陸前高田市)



7 ご家族を亡くされた語り部のお話 (石巻市)

事業参加校

下田高校、沼津商業高校、三島北高校、清水南高校、静岡サレジオ高校、池新田高校、浜松湖南高校

参加生徒の声

- ・今回学んだ災害の恐ろしさを、周りの人や家族に伝えることが自分の役割だ!
- ・今までの自分の防災意識の低さ、災害への備えが全くできていない自分に恐怖を感じた。

防災クイズ

当選者の発表は、景品の発送をもって代えさせていただきます。

問題 ○の中に入る文字をお答えください。

避難所は○○○○○○が主体的に運営します!

前回の答えは [静岡県防災] でした。

今回は 抽選で10名様に景品を送ります。
大人気! 簡単トイレセット
(A4判タイプ化粧箱入り)



応募方法

クイズの答え、郵便番号、住所、電話番号、氏名、年齢、性別、職業、記事の感想を記入したハガキ、またはweb版入力フォームにてご応募ください!



ハガキ 記入例



web版入力フォーム

●応募締切 令和元年12月13日(金)
※ハガキの場合は当日消印有効

企画・編集 静岡県地域防災活動推進委員会

発行 令和元年11月1日
静岡県危機管理部
危機情報課
TEL.054-221-3694

制作・印刷 星光社印刷株式会社